

小麦新品種「ヒヨクコムギ」について

吉田美夫・鶴 政夫・北原操一

桐山 毅・福岡寿夫・吉富研一・井手義人

(九州農業試験場)

YOSHIDA, Y., TSURU, M., KITAHARA, S.,
KIRIYAMA, T., FUKUOKA, H., YOSHITOMI, K. and IDE, Y.

A New Wheat Variety "HIYOKU-KOMUGI"

登録番号 小麦農林107号(系統名:西海115号)

来歴 昭和31年に、九州農業試験場において、「四国87号」(昭和32年、「ジュンレイコムギ」と命名)を母とし、「西海95号」を父として人工交配を行なった。以後同場において、引続き、F₃での世代促進栽培後、F₄派生系統として、派生系統育種法によって選抜および固定をはかってきた。また、関係各県における地方適否に関する試験や、生産力検定・特性検定等の諸試験が実施されてきた。なお、昭和40年度に「西海115号」と命名され、昭和43年度における世代は雑種第14代である。

本品種は、「農林61号」と比較して、下記のような形態的および生態的特性をもっている。

形態的特性 短稈で、稈が太く、大穂であるが、穂数がやや少ない穂重型の品種である。叢性は中間型である。株はやや開き、葉は幅が広く色が濃い。穂は長芒を有し、小穂着生密度は粗である。子実の充実はよく、大粒で、千粒重は重い。粒色は淡褐色、光沢にやや乏しいが、品質は「農林61号」に劣らない。穂型(紡錘状)、浮色(褐色)および固定度については、「農林61号」と同様である。

生態的特性 出穂期で5日、成熟期で4日早い早生品種である。短稈で、稈が太く強いので、倒伏抵抗性が大きい。各種銹病およびグリーンモザイクにはやや弱く、赤かび病および白渋病抵抗性は「農林61号」と同程度であり、縞萎縮病には極めて強い。早生としては多収である。このことは、穂数は少ないが、1穂着粒数が多く、千粒重の重いことに基因している。多肥・密播栽培をすると一層多収になる。株はやや開いているが、手刈りはもちろん、機械刈りにも差支えない。穂芽発性は「農林61号」と同程度であり、播性程度はⅠ～Ⅱである。本品種は、そ

の両親に比し、出穂・成熟期・稈長・穂長・倒伏抵抗性・播性等について典型的な超越育種を示している。

栽培上の注意 短稈で、稈が太く強いので、多肥栽培にすることが望ましい。また、粒は重く、大きいので、一定重量ないしは容積中の粒数は、他の品種よりも少なくなるので、播種に際して薄播きになり易く、かつ穂数がやや少ない穂重型の品種なので、密播栽培にすることが望ましい。

適地および奨励品種採用県 本品種は、九州中部以北の平坦および山麓の肥沃地帯に適するものと考えられる。現在、大分県および佐賀県において、奨励品種として採用が予定されており、両県いずれも約4,200 haの普及が見込まれている。

命名の由来 比翼連理に由来し、人々の和と協力を意味している。また、肥沃地に適し、そのうえ、穂の姿は鳥が翼を上げたようでもある。

第1表 ヒヨクコムギと農林61号との比較

項	日	ヒヨクコムギ	農林61号	試験実施名
出穂期(月・日)		4.13	4.18	九州
成熟期(月・日)		5.30	6.3	
稈長(cm)		84	91	
穂長(cm)		10.6	9.5	
穂数(本)		384	419	
穂首の直径(mm)		2.6	2.0	
1穂重(g)		707	749	
千粒重(g)		34.6	32.3	
1穂着粒数		33.5	29.4	
収量(kg/ha)	標準栽培	41.5(108)	38.3(100)	
	多肥栽培	42.5(110)	38.3(100)	
	密播・多肥栽培	42.9(116)	43.0(100)	
	平均	44.5(112)	39.9(100)	
穂発芽性		難	難	
縞萎縮病		強	中	
耐倒伏性		強	中	岡山,九州
品質		中	中	熊本,香川,食研,九州
冬種銹病		中	やや強	長崎,鹿児島
赤かび病		やや強	やや強	愛知,高知
白渋病		中	中	東海近畿,九州

(注)九州農試における成績は、約6カ年間の平均値を示す。